

核も戦争もない平和な21世紀に！

被爆75周年原水爆禁止世界大会

広島と長崎に原爆が投下され、多くの人々の日常が一瞬のうちに奪われてから75年。この間、原爆後遺症に苦しむ被爆者や被爆者二世・三世、在外被爆者に対する国家補償と社会的偏見の排除は思うようにすすんでいません。また福島第一原発事故関連では、未だに約2万9千人の被災者が県外での避難生活を余儀なくされています。さらにトリチウム汚染水の海洋放出が大きな問題となっています。

このような情勢の中、今年も原水爆禁止世界大会が開催されましたが、今年はコロナ禍のため、オンラインによる集会・シンポジウム・分科会となりました（YouTubeで一部視聴可能）。8月9日の長崎大会では、岩手の第22代高校生平和大使2人がオンラインによる「高校生平和大使シンポジウム」に参加し、福島・東京・広島・長崎の高校生平和大使と意見交換しました。

ビリョクだけれどムリョクじゃない

高校生一万人署名活動 署名活動集約集会

8月9日、高校会館において、高校生平和大使4人（第22代、23代）と高校生一万人署名活動実行委員会・岩手のメンバーのうち7人が集まり、「2019～2020署名活動集約集会」が行われました。高校生一万人署名活動は、1998年に被爆地長崎の高校生が、高校生平和大使として国連本部において被爆地の思いを伝えたことが契機となり、自分たちでできる核兵器廃絶のとりくみとして生まれたものです。この活動は全国に広がり、2011年からは東日本大震災被害への世界中からの支援に対して感謝の意を伝えるため、岩手からも平和大使を派遣し、署名活動にとりくむことになりました。



この日行われた集約集会では19～20年度にとりくんだ署名2,347筆を確認しました。今年度のとりくみはコロナ禍の影響を受け、筆数としては伸び悩みましたが、県内各地の街頭で呼びかける高校生の活動により、核廃絶と平和の尊さ、被災地復興への願いは県民に広く伝わっています。

高校生らは1年間の活動を振り返り「自分たちの活動が平和を願うための力になっていると自覚したい」「同年代で賛同してくれる人が結構いることに驚いた」等の感想を述べ、互いのとりくみを讃え、これからの活動に対して意を新たにしました。

集められた署名は例年、高校生平和大使がスイス・ジュネーブの国連欧州本部に届けていますが、今年はコロナ禍により直接届けることは叶わず、別途対応する予定です。